



沖入部 伽羅



特 別
A13
1912
8



御入部



御入部伽羅女卷之四

目録



堂たぐい花はな八はち寸すん令しやう百ひやく五ご色しき

十三 三ヶさん北きた津つ一いつ番ばん此こゝ

一いち夜や若わ家かのの分ぶんたたぬぬ世よ事こと
一いちみみががいいししももささびびののななぬぬ
一いち年ねん五ごつつももささししたたせせりりふふ

令しやう此こゝ多た分ぶんににああつつたたれれとと

十四 新しん町まち一いつ番ばん此こゝ食く食く家か

一いち抄しやう評へい一いつつつのの九く飛ととといいくく
一いち思しふふここのの名な部ぶのの評へい判はん
一いち与よ持ぢ名なををせせたたるるららりり

無きものなるといふは男

(十五) 川端一番北大商人

一 狐の皮を乃ちうへに
 一 引くうへに材木をく
 一 かくももまゝにしてん

成布に先が自ら他人

(十六) 傾國一番北河心中

一 所とく極よとてん
 一 みるじけりめりてあま
 一 口がまは糸の結を有る

御入部伽羅女巻之四

(十三) 謹詠は裸金百両包

清の乃兼に字拾送とてありぬなをてた。たしとて
 唯るめてもさうらりと。門松乃乃流を能打りりる
 うらむりとりつた。は富持の中は。目を分一の御
 里。新所の新とり。九の海をを家に。いごり一
 代ははは。名。字。後。日。く。信。事。氣。と。付。え。信
 仰。と。余。命。を。い。た。氣。な。新。首。阿。波。乃。鳴。門。と。云。度。此
 是。ぬ。大。臣。本。御。乃。み。と。一。張。ま。ま。徳。神。浦。より。懸。心。捕。と
 御。家。一。半。世。と。い。ふ。い。は。何。波。を。信。く。ま。と。と。これ。と。も
 穿。穿。と。も。た。し。い。か。い。虚。人。は。入。目。守。守。守。り。と。も。ま。ま

箱の底に「してて」とあり。其後小波乃矢又「り」男、は
 小波乃矢と「てつ」ぬるの奥列「小判で」か「り」
 あつも「繕」ち。長谷川等雲「新」る。さ「所」沙「ら」ぬ
 乃「多」ぬたの「じ」に「大」分の物入「り」は「父」花車「は」してあ
 れ「と」う「ぬ」を「と」あれ「も」も「と」又「て」も「道」ぞ「乃」所「と」
 「小」お「次」次「書」書「あ」が「う」ひの「夕」夕「ま」ま「牧」の「な」い「里」里「の」
 せ「と」先「が」も「さ」う「ぬ」ぬ「び」ん「な」れ「り」も。揚屋中「へ」家「飛」袋
 ぞ「と」故「紗」乃「牧」帳「と」同「方」な。な「ま」た「令」限「乃」令「書」取
 事「も」其「由」よ。お「ら」教「む」惟「か」さ「び」つ「て」也「紙」久「ら」松
 「山」六年乃「取」。そ「ま」を「律」に。ゆ「き」一「半」半「人」も「ま」
 里「や」に「す」さ「ゆ」さ「事」也。目「ら」も「出」ゆ「と」一「里」大「う」

あく「と」れ「り」ろ「う」せ「と」う「ハ」が「思」案「ふ」者「に」吹「く」け
 せ「ん」也。あ「は」な「う」は「の」思「く」は「友」の「所」前「も」首「本」
 持「三」十二「番」何「底」覆「わ」。紙「綿」は「大」忌「乃」是「書」一「彈」に
 人「持」乃「あ」又「百」廿八「人」とも「に」。修「く」前「乃」。目「地」地「お」屋「子」
 の「役」引「脚」律「番」を「人」に「乃」賃「料」む「裏」付「乃」と「下」た「り」
 く。は「は」し「り」千「五」へ「の」令「子」。箱「粒」あ「半」とも「に」金「の」前
 修「き」お「人」に「に」う「番」も「せ」右「回」も「賃」料「は」ら「う」れ「所」
 ぬ「あ」す「い」も「こ」一「し」さ「う」く「事」社「中」七「押」前「給」
 二「律」写「と」畫「を」下「と」れ「八」折「脚」り「新」所「ゆ」く「所」う
 ぬ「り」物「流」え「は」ば「り」右「代」分「限」。天「傳」乃「令」屋「箱」小「波」
 の「三」谷「石」は「が」の「律」表「鞠」地「の」水「圍」丸「打」と「古」と「ま」記



戸屋う。けろち辰海入東乃平として。右史右林ハ
よとらそらけ指く海でと孫里あくあ月申ハ
掃とらうぐー一と受今日より三十日と。そら
乃らあつせよ曲痛と都 控其うとらう。一
すいようけあ人。あうぬああああも。響ハ
のあうらとせとそそのあ品乃さ下にもあせ優に
てはくああー指よけあらとらあてのあああとして
曲痛のあ中へあ開お平付のれもむら。右史右
に金百あばく。川船よ三十ああ種は甲ああ回
急に三十あ小あ種よ指あああ二ああ開らん。あを
に印ああく指あば。ありてかあうんあ下あに

ああは響の回候（百あ指屋も回平は響屋の内
候へあ指あ介に又合子あ。指屋くつハあ屋よ
うとらうとら。下ああ男あうらあてれたら種は
ありのあのあ種あ右のあ二千日のあ代あうら
十ありあ。ああああ後ハあ。合子乃あハあ
のあ自身ああにあああ。ああうらあああ
のあ一人くそらあ。あ中あともあああ
このあさあハああハあ。あく。はああ
あああああああはあ。小判でせああ
ああああああああああ。あをああああ
あああああああああ。ああああああ

情もみづも髪もやうなうさうくおし月をて催しんを
思ふ乃ほ山白とぞなき糸け糸十もんハ三ふもぬ名ハ
ひんりもてし世も此に似ぬぞいふるがもさういひなま
あしぬき湯ぬあうるいめ付うとんさゆ。毛が櫃を此大思
なり。根車瓦の奥列を固くろ麻風の要みとをなしはぬ
一人涙と昔中を小君ぬ花の雪ぞ涙木屋若念の
泣威勢をを固まうあま様はまり程なりかひや大長
こそねくならむむもぬぬそこが念まそ念ぬぬね二十
一もぬぬ屋乃奥列。思ふさそく。あふよいくら乃乃さ
あつしれかこよは起なり。ねれしららる。涙木を妙す内は
名もさうく。やう之おとどまづう白法蓮乃かハおとむも

万をまぬ小たまぬ中て拍子事たまぬ。三五さん落雲
ぬぬいがおすれ長門のねつと念しほりぐれ念を念
の法を雪初ゆ風さぬ芳山念ずんとすこま一ね
本や。りりうさゆし。今員人やそけうもと今を交
りりしとん中。花傍さゆ。あつしもあ國にぬぬ。ね
ぬのぬ子や屋しまぬ。細跡はわぬぬ人さぞ世津の賢者
れられたいりう。病痰病わうけも。んまう。命と遊
とく。大塊。念とま。り。相喚子。教を。是ら。あて。傳
て。其。次。なる。を。念。糸。ら。糸。を。守。八。條。六。世。れ。し。ら。く。い
およ。さ。う。く。ひ。だ。ぬ。が。ぬ。じ。さ。う。く。も。世。を。守。念。賢。く。と
あめ。さ。や。さ。う。く。守。念。糸。を。ぬ。さ。も。い。此。君。を。目。本。一。乃

與人そく昔書跡れし下物。なほ此所とて大い勝相其
 次々一夫乃君此皇居とありなる。亦も山城白鳥乃
 信さにして修雪とありてゆく。白鳥さぬ相三十九
 番より人の心をうらむ小蝶ももとも大なる事
 花里さぬし下なり。相も次より一人より水鏡より
 ひとおよりせぬり乃清女歸人ありしと説く事これ
 とや此君もかありありありなり。口舌さゆく積り
 てとつる性強と立山の音乃もとんととよとて
 極とて下りなる。大長よりかよはてしし相も
 是れりしはじめてそそきなり。書師の家守八より
 してく。さるるを修具をせし。修具ぬく入姑のさ

ころ場もはく。修具修具の雲のよかり。細の奥乃
 大影に、はらまてく。あそく修具となくむめんくの
 んぐぬ。毎目生玉てまがはる。高へ行書師もあそく
 あんる耐星とあり。新地橋は乃料理茶やあり
 組のうらやさ。丸巻まのるたまもよ。修具系文巻
 岩系つて。めん七人下段。めんて。町中とる物とさ
 大前代末父乃。かぐさる人たりき
 (玉) 安い無なるまの命気
 世界は令根程かころのまをこれいあある
 ともめらむやがうみあいな家の家とつる。燈
 去買力あそく。雲細工の子種あなく。やがはる



とらぬおみくろ。是嫁しな付。まぐくはく横町。
少ゆ。幾方方ともうごりなくお合は村木のこげ
村木。何程なりとも殺そうた。も。喉の痛とね。面
よ。めんくが。宿は。海り。先山。村木の。妻。出。は。あ。く。具
知を。あ。て。め。ひ。借。交。海。ぐ。P。よ。ま。だ。い。あ。た。れ
よ。た。や。し。め。き。れ。村。は。あ。と。さ。ら。た。ま。よ。に。ま。あ。く
も。件。の。妻。女。殺。ら。し。き。男。を。さ。ま。ま。く。そ。他。よ
ち。う。ろ。く。村。木。を。か。る。よ。川。は。る。入。ま。ん。と。ひ。い。う
め。も。男。ハ。同。ん。せ。め。あ。り。め。く。も。死。な。な。ま。を。ま。た。う。さ
ぢ。し。村。ち。く。く。海。り。た。ひ。わ。り。よ。は。村。木。川。た。か
き。く。く。く。あ。れ。や。そ。を。に。い。村。木。の。せ。牛。死。を。ま。た

女の親。い。が。は。ぬ。り。み。ら。し。し。ち。く。さ。け。い。を。殺。お。乃
は。嫁。半。男。け。つ。事。と。わ。く。今。抱。な。は。を。を。ま。く。く。い。
そ。う。り。ろ。く。く。行。あ。ま。た。ま。の。村。木。村。木。の。り。る。物。殺。方。人
の。ど。め。た。綿。尾。を。付。た。紐。を。な。り。て。世。を。乃。名。代。を。な
大。長。由。り。り。ゆ。め。あ。り。く。中。行。め。く。ち。う。ろ。く。か。も。い。入。あ
お。を。世。に。て。ま。た。は。ま。あ。う。ま。た。は。ま。あ。う。く。そ。も。ゆ。た。く
さ。う。く。そ。他。な。り。ろ。く。を。守。護。し。は。り。せ。奥。に。ま。あ。し
い。も。は。い。し。あ。あ。や。作。を。来。た。ま。さ。く。い。ま。あ。あ。く。あ。普
徳。で。し。ゆ。ち。は。り。八。と。め。さ。う。ま。又。村。木。の。血。を。せ。よ
し。横。街。回。り。あ。が。り。う。た。か。う。さ。女。七。人。座。あ。ま。並
び。あ。ま。く。く。秘。え。せ。し。て。物。も。入。入。り。は。味。方。の

急しつりつりとはなれは彩色。ニラ級乃。石塔多一。大壘を
 こりせぬくむ中八か。こまり。そハ苗地のん中塚を
 まづら兼座とあり。廿四金銀の新物。ついで
 あつとあつとまぬ。海舟たぬ人ともよ。さうちぐ。中。二橋以
 来。板千の命。されどあも。あつぬや。一巾婦と。
 こらよ。あつとまぬ。実よさ。あつとま。初めく。小燈丸が
 事。あつとま。根々。あつとま。あつとま。あつとま。
 ありし。又母乃。あつとま。あつとま。あつとま。あつとま。
 りと。竹立て。幼り。石塔。あつとま。あつとま。あつとま。
 りと。あつとま。あつとま。あつとま。あつとま。あつとま。
 され。あつとま。あつとま。あつとま。あつとま。あつとま。



婦へしききりつゝ。はららりし時。世男懐中より目野徳比
紗布とたぐし。とほ面がく。波来々。修く持志とくも。
こゝろを。半。まらうとく。欲み。波。とにあり。む。横子。まらう
久。妻。浪人。老母。二人。妹。人。七。十五。母。代。の家。其。三。人
あ。が。う。高。津。中。社。けて。生。玉。簪。別。へ。を。惜。に。ゆ。う。絲。の。女
士。う。ぬ。ま。と。世。女。を。ま。と。して。後。高。友。也。年。致。是。悟。と
き。四。人。の。か。ん。え。う。ら。ま。り。と。と。か。り。あ。う。つ。ひ。ひ。あ。の
子。が。家。を。と。車。屋。而。と。新。町。三。十。目。の。も。も。は。ま。ま。と
ん。備。け。し。れ。も。今。も。か。つ。と。八。雲。門。の。鳥。を。と。手。付
あ。申。に。ま。金。子。は。義。い。ま。の。あ。の。由。か。ら。り。交。還。は。に。に
あ。と。と。頼。と。わ。し。も。も。ぬ。ぎ。扱。扱。へ。つ。た。こ。も。ま。と。い。ん

わしとく。り。弟。む。い。ち。く。浪。才。卒。士。の。高。津。中。社。の。い
ね。遠。な。り。つ。て。一。途。へ。も。わ。と。は。ま。ま。と。お。持。た。ゆ。ぐ。と
か。つ。と。これ。と。と。ぬ。ぬ。と。居。ま。る。や。も。ま。ま。と。よ。わ。ま。ま。
金。ば。く。ま。の。命。あ。れ。も。愛。と。ん。の。が。ん。と。こ。よ。あ
ら。ず。と。高。津。中。社。と。て。内。へ。し。り。ま。を。お。あ。ら。け。布
袋。を。と。り。お。持。た。の。包。と。見。ま。た。は。は。曲。掃。て。お
よ。打。た。か。金。ま。ま。と。ま。や。れ。か。お。持。た。し。り。は。林。海。と。ま。ま
いて。金。子。の。殿。何。が。ん。う。後。金。を。一。後。り。あ。ま。と。あ。は。大
く。こ。か。う。ぬ。あ。ら。り。乃。ん。中。一
す。ま。ぎ。一。は。ら。り。打。つ。と。ま。ま。の。せ。り。さ。と。あ。つ。て。し
も。も。と。い。と。う。と。海。の。を。も。ひ。ん。か。う。と。い。は。あ。い

めをそんしきこえぬ我をいお同しけりけり
らひ後ともあつしすれをあかす急あが
く何ぞぞうあはせにわしは里たがしな
めまのしせわのたぬ身しものなまはま
し京もろしん事あまごん食あつてりる
ら情よごうが身あつてりる今もあつて
よしきまじしひふひし目へのあつて
れしよごうらあひひしきあつてりる
なまはらうあつてあつてりるあつてりる
しきよごうあつてりるあつてりるあつてりる
いぢあつてりるあつてりるあつてりるあ

あつてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ

長尾氏名

あつてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ
つてりるあつてりるあつてりるあ

あつてりるあ

